

学長就任の抱負



文教大学は1966年に創立され（当時は立正女子大学）、2016年で50周年を迎えました。現在では埼玉県越谷市の越谷キャンパスと神奈川県茅ヶ崎市の湘南キャンパスから成る、7学部、5研究科、専攻科、外国人留学生別科を持つ総合大学です。

建学の精神として「人間の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、はぐくむことである」という「人間愛の精神」に基づく教育を掲げており、この「人間愛の精神」を有した人材の育成こそ、本学が広く社会から大きな信頼を得てきた理由であると言えるでしょう。これからの社会においては、様々な課題について、協働しながら主体的に取り

り組んでいかなければなりません。「人間愛の精神」を備えた人物こそもっとも必要とされる人材だと言えるでしょう。そのためにも本学の社会的な責務は大きいと認識し、これからの社会にとって有為な人物の育成に全力で取り組んでいきます。

「これからの文教大学」を構築するための基礎的なビジョンとして、次の二つを考えています。

一つ目は、「プラットフォーム」としての機能を充実させるということです。「プラットフォーム」とは、ある機関が、他者と他者とを繋ぐ場として機能することを言います。（教育を通じて）人材を社会に送り出し、研究結果（あるいは研究活動そのもの）を社会に提供する機関として、本学はこれまで以上に機能を充実させ、体制を整えていかなければならないでしょう。

二つ目は、「文教は我々のホームである」という意識をこれまで以上に醸成することです。わたくしは文教大学の卒業生です。学生として、卒業生として、教員として、と、内から外から立場を変え様々な視点から本学を見てきました。また学生として、教員として他大学も見てきました。そうした経験を通じて、本学では「居場所を見つけることがで

きる」ということを強く感じています。授業、ゼミ、クラス、クラブ活動など、日常生活のあらゆる機会における学生同士、学生と教職員との交わりの中で、居場所が見つけられ、その結果、自己肯定ができることこそ、本学最大の魅力です。この魅力を充満させることで、文教大学を「ホーム」であるという意識が形成されていくと確信しています。

この二つのビジョンに基づいて、次の「三つの場」の構築を目指します。

1 「学びの場」の構築

大学においては、それぞれの学部学科の専門教育だけでなく、大学全体を通底する基幹教育も必要です。こうしたことを視野に、カリキュラムの整備、構築に取り組まなければならないなりません。

また、主体的な学びが行われるためには、学ぶための動機づけを見つけやすい環境を整える必要があるでしょう。専門教育と基幹教育の両方において、「知」と「技」の融合によるアクティブラーニングが可能になるような環境を整えなければならないのです。こうした動機づけを喚起するためには、学内における施設の設置が必要なことはもとより、留学制度や地域ボランティア活動などの制度の整備もさらに必要です。学生が「外」で学ぶことを大学がサポートすることが必要です。

2 「学生生活の場」の構築

学生生活には安心できる居場所が必要です。クラス、ゼミ、部活、サークル以外にも、学科・専修、学部、キャンパス、学年を越え、横にも縦にも交流できる場、留学生、大学院生、卒業生との交流の場をつくらなければならないでしょう。

なお、昨今、大学に入学したものの、いろいろな側面で大学生生活に適應できない学生が増えています。こうした学生に対して有機的に支援していく体制を、これまで以上に充実させる必要があります。

3 「創生の場」の構築

大学は教育機関であると同時に研究機関でもあります。独創的な研究の創生を支援する仕組みを今まで以上に整えていかなければならないでしょう。しかし、こうした研究機関の側面は、社会に対する貢献を視座として持っている必要があります。常に社会との相互関係を意識して、研究の創生を支援していく仕組みづくりが必要だと考えます。なお、こうした創生は、何も教職員だけのものではありません。学生たちの創生に対するサポートも必要な事柄です。

以上の「場の構築」実現に最も肝要なことは、「皆で文教大学を作る意識の醸成」です。教員職員が主体的に「作る」意識を持つことはもとより、学生にとっても、大学を「学ぶ

場所」としてだけでなく、自らも大学を「作る」一員であるという意識が醸成されればと思っています。さらにこうした意識は、卒業生、父母、そして地域にも広がる必要があります。こうしたことの実現には対話が必要です。互いに対話しながら進んでいくことこそ、必要な姿でしょう。

文教大学は、2021年に「もう一つのキャンパス」を東京の足立区に開設します。3つのキャンパスをもった大学をどのように設計していくのかということが、わたくしの在任期間ではとても重要な職責になります。文教大学に関わる全員が一丸となって、この大きな課題に取り組んでいくことが肝要です。「一つの文教」という意識の醸成の構築こそ、学長就任にあたって、もっとも強く意識していることです。

主な経歴

1 文教大学における職歴

1992年4月	～	1996年9月	文教大学教育学部専任講師
1996年10月	～	2004年3月	文教大学教育学部助教授
2004年4月	～	現在に至る	文教大学教育学部教授
2013年4月	～	現在に至る	文教大学副学長

2 文教大学における校務歴

1993年4月	～	1995年3月	文教大学越谷校舎学生部主任
1996年4月	～	1998年3月	文教大学越谷校舎入試委員会委員
2000年4月	～	2007年3月	文教大学越谷校舎教務委員会委員
2003年4月	～	2007年3月	文教大学教育研究所研修部主任
2007年4月	～	2008年3月	文教大学入学センター管理部部員
2007年4月	～	2008年3月	文教大学越谷校舎入試委員会委員
2008年4月	～	2009年3月	文教大学入学センター次長
2008年4月	～	2011年3月	文教大学越谷校舎入試委員会委員長
2009年4月	～	2011年3月	文教大学入学センターセンター長
2011年4月	～	2013年3月	文教大学入学センター副センター長
2013年4月	～	現在に至る	文教大学入学センターセンター長
2013年4月	～	現在に至る	文教大学ハラスメント防止委員会委員長
2013年4月	～	現在に至る	文教大学不正行為対策委員会委員長

3 専門領域

日本語学

4 所属学会

日本語学会

日本言語学会

以上